子どもたちが届ける　全力のステージ

11月29日　子ども文化祭

子どもたちが日頃の活動を発表する子どもだけの文化祭が穂高交流学習センター「みらい」で開かれました。ステージ発表では、バレエや日本舞踊など8団体が真剣な表情で練習の成果を披露。会場は発表が終わる度に盛大な拍手が響いていました。また、絵画や書道などの作品展示では、訪れた人が趣向を凝らした力作に見入っていました。古典落語を堂々と演じたあづみ野落語教室の大曽根さらまさん(10・堀金烏川)は「緊張したけど上手く発表できた。見てくれた人の拍手がうれしかった」と手応えを語ってくれました。

この季節だけ　この時間だけの絶景を求めて

11月24日　安曇野雲海ロゲイニング2025

安曇野雲海ロゲイニング(3時間・5時間の部)が明科公民館をスタート・フィニッシュ会場に開かれ、県内外から227人が参加しました。5時間の部は雲海が出現する時間に合わせて午前6時にスタート。高得点のチェックポイントとして設定された長峰山山頂に到着した参加者は、朝日に輝く北アルプスの麓に広がる雲海を見ると大きな歓声を上げていました。混合チームで参加した大宮亜依さん(31・浜松市)は「白鳥も見られたし、雲海も最高だった。歩かないと見つけられない安曇野を発見できた」と5時間の競技を振り返りました。

壁一面に描く　人と自然が溶け込むアート

11月23日　空き家を活用した参加型ウォールアートイベント

明科地域の空き家を活用した交流の場「松崎商店」の外壁に絵を描くイベントが開かれ、30人が参加しました。松崎商店はギャラリーが営まれていた土蔵を地域おこし協力隊員2人が整備し本年8月に誕生。人が集い親しめる場所になることを願って、東京芸術大学大学院の学生へ壁画のデザインを依頼しました。当日は学生と参加者が北アルプスや安曇野を流れる水、大地を支える地層などを3色の塗料で表現。自然と人が調和する姿を丁寧に描きました。

参加した寺嶋愛維さん(25・明科中川手)は「色が足されて温かみが増したこの建物ように、にぎわいが広がって地元がさらに温かい場所になればうれしい」と話してくれました。

Interview　安曇野きらりびと

子育てをシェアして一緒に未来を抱く

親子が安心して過ごすカフェで思いと人をつなぐ

大塚　彩音さん

子育ての喜びや悩みをシェアできるカフェで人と人の出会いをつなぐ大塚さんに話を聞きました。

思いを大切に選んだ道

カフェを始めたきっかけは次男の育児休業が明け、看護師として働いていた総合病院へ復帰する時のことです。それまではライフスタイルに合わせて、勤務形態や時間を変えながらキャリアを重ねてきましたが、子どもたちと過ごす時間と働く時間のバランスを考えると条件が合わず転職を決意しました。

次の働き方を考えていると、毎日の育児や仕事で気持ちにゆとりがなくなり、いつの間にか自分自身の思いを後回しにしていたことに気付きました。何かを選んだり諦めたりするのではなく、どれも大切にできる方法はないか。モヤモヤしていた自分の思いを素直に受け止めた結果、子どもを連れて働ける場所を自分で作るという私なりの答えにたどり着きました。

さまざまな選択肢からカフェを選んだ理由は、子育てを頑張る人がひと休みできる場所を地域に増やしたいと考えたからです。子育ては上手くいかないことの連続。外食をしても子どもを気にかけていると食べた料理や会話の内容が思い出せなくなることもあります。特に1人目の育児は分からないことばかり。祖父母も仕事があり毎日は頼ることができず、赤ちゃんと2人きりになって大人と話す機会は少なくなります。そんな大変さや孤独は減らして半分に、喜びは分かち合えるように、託児付きで温かい食事と会話が楽しめる場所を目指しました。経営の経験はありませんでしたが、県の起業支援を利用して2024年2月にMIRAHUG CAFEをオープンしました。

心の荷物を降ろす場所に

オープンから1年半余りが経ち、ありがたいことに満席になる日や繰り返し足を運んでくれるお客さんが増えてきました。カフェで知り合った皆さんがその後も交流を続けて再び来店してくれるなど、少しずつ子育てをする人同士が出会いつながるサイクルが生まれていると感じています。また、お客さんがゆったりと自分を取り戻す時間を過ごすことで、来店した時より一層晴れやかに帰っていく姿を見ると、うれしくてたまりません。

また、スタッフと子育てをシェアできていることも心強く感じています。共に働くスタッフは全員子育ての真っただ中。何気ない会話が悩みの解決や新しい発見に結び付くこともよくあります。それがリフレッシュにつながり子育てと仕事に取り組めています。

まだまだカフェ経営は一歩を踏み出したばかりですが、子育てをシェアできる場所があればきっと、救われる人がいる――。その思いを大切にしてこれからも工夫を重ねていきます。

MEMO
OMIRAHUG CAFE
大塚さんが開業したカフェ。「子育てをシェアしよう」をテーマに、託児と栄養バランスの取れたメニューを提供する。店内で多彩なイベントも開催し、子育てをする人をつなぐ場になっている。

1987年松川村生まれ。結婚後、マイホームの購入を機に安曇野へ移住。7歳と4歳の息子の子育て、カフェ経営に奮闘する傍ら、特別養護老人ホームに勤務し看護師としても活躍している。

◀MIRAHUG Instagram

Vol.42